町報
1994
10月
No.283

こうふ

家族みんなでつくってます
食べてください
―私の家―
うちげの大根

（小椋利春さん一家・下蚊屋）

町の特産物 大根 追っかけて

「はい、ここにスタンプ押して」と姉妹仲よくお手伝い（小椋さん宅）

実りの秋、収穫の秋。町の特産物もどんどん京阪神方面を中心に出荷されています。そこで生産から流通、そして消費までのルートを追跡し、どんな人たちの手を経て流通していくのか特産物の評判など聞きました。

今回は、大根にしぼって取材を行いました。

家族総出で出荷作業

早朝、大根を満載したトラックが、畑から帰ってきました。

まず、採りたての新鮮な大根は機械により、きれいに洗い、大きさごとに振り分けられます。そして、きちんと整頓された大根は、適度な長さで葉を切り落し、箱づめが行われます。

小椋利春さん（下蚊屋）一家は家族総出で、出荷作業に大わらわ。子どもたちも手伝って「はい、ここにスタンプを押して」とお姉さん。子どもたちも自分たちの仕事をきちんとしています。

「休日などは、こうして手伝ってくれます」と笑顔でこたえるお父さんの利春さん。

一箱に十本ずつ、きちんと

▲集出荷施設に運ばれた大根

つめ込まれた大根が次々と山積みされました。

検査を受けて予冷庫へ

午前十一時ごろ、箱づめされた大根は、美用にある集出荷センターへ運ばれました。

集出荷センターでは、ＪＡの職員によって、規格どおり大根が収められているかどうか、検査が行われます。

その検査が終わると規格ごとのパレット（運搬用の荷台）に荷くずれをしないように交互に積まれます。一パレットは五十箱。一箱は十キロですので、一パレットは五百キロになります。

▲予冷庫に一昼夜貯蔵される（集出荷施設）

こうして、荷おろしが終わると、小椋さんも一息つくことになります。

昼過ぎまで、生産者の方は自慢の大根、白ネギなどを運んでこられ、威勢のいい声とフォークリフトのけたたましい騒音が集出荷センターに鳴り響きます。

そして、大根などの特産物は、予冷庫へと運びこまれます。この予冷庫には、約三千五百箱が貯蔵できる施設。

この予冷庫は、特産物の鮮度を保つことと出荷体制を確立することにあります。ここで一昼夜、温度三度で保れ、予冷されます。

安全運転で大根輸送

午後三時、日本通運の大型トラックが到着。

一昼夜、予冷した大根は、次々とトラックに積み込れます。

ＪＡの職員と数量のチェックが行われ、各市場との数量の確認を終えて、この日は午後五時ごろに、京都、大阪の市場を目指し、二台のトラックは出発しました。

運転手は三上さんと長沢さんのふたり。

トラックは、蒜山インターから米子自動車道にのり、落合ジャンクションを経由して、中国自動車道へと進みました。

制限時速を守り、安全運転で、ベテラン運転手の腕がひかります。

途中、わずかな休憩をとって、大阪、京都へ。

大都会のネオンがキラキラとみえるころには、車の台数も増え、同じ市場を目指す大型トラックも、時折見えるようになりました。

▲フォークリフトで積み込み作業

▲京阪神に向けて出発する大型トラック（集出荷施設）

無事故で東部市場到着

午後九時過ぎ、大阪市東住吉区にある東部中央卸売市場に到着。

フォークリフトで十パレット、約五トン分の大根がここで荷おろしされました。

下蚊屋
小椋利春さん

今、三ヘクタールで大根を栽培しています。今年は、値段もよく、喜んでいます。

こうして、家族いっしょに仕事ができることも、財産です。いろいろと大変なこともありますが、これからも、品質のいいものをつくりたいですね。

ＪＡ鳥取西部
江府町支所
営農販売課係長
加藤誉正さん

大根を本格的に出荷して早や三十年。町の特産物として京阪神でも人気を博しています。これも、生産者の皆さんの努力と関係機関の協力の賜です。これからも、品質を更にアップするよう私たちも頑張ります。

すでに、北海道から、約十トン以上の大根が荷おろしされていました。

セリが始まるのは、午前五時からです。夜中にもかかわらず、全国各地からトラックが集まっていました。

▲荷おろし作業（東部市場）

毎日が全国大会 せり始まる

午前四時、仲買人たちは、各地から来た大根の箱を開けて、品定めが始まりました。形、色、つやなどを調べるプロの目がひかります。

この日、全国から輸送されて来た大根は、北海道（26トン）、新潟（7トン）、長野（1トン）、岐阜（9トン）、それに鳥取・江府町（5トン）の合計48トン。

午前五時、ブザーの音とともに、セリが始まりました。一気に活気づく市場。セリ人の威勢のいい声が飛び交うなか、独特な指使いで、次々と大根はセリ落されていきます。

毎日が、スポーツでいう全国大会のような感じ。

時間にしてわずか二～三分すぐに終ってしまい、それぞれの仲買人たちが、手際よく振り分けていきます。

市場は、いたる所でセリ人の声、フォークリフトの音でごった返していました。

案内をしてくださったのは東果大阪（株）そ菜部の松田次長さん。

事務所に入るとずらりと並んだコンピューターがセリ値、数量、さらには、明日の出荷状況などを整理し、各ＪＡなどに連絡をしていました。

「市場は休むことがありません。職員は三交替体制で勤務。私たちは、朝四時には出勤します」と市場人らしい精かんな顔で答えてくれました。

江府の大根のファンでんねん

江府町の大根を買った仲買人のひとり、山一青果（株）の方に話を聞きました。

「江府町の大根、好きでんなあ。この大根なんかサシミのケンなんか、最高とちゃうやろか。それから、表面に黒いつぶつぶがあるけど、土質の関係なんやろか。今年はぎょうさん、北海道からも入っているし、まけんように作ってや。」と生産者の名まえを何人も上げて、具体的にしかも、細かい所まで、大根の特性を知りつくしている仲買人。

売りさばくプロの目と研究熱心さに驚きました。

▲セリ人の威勢のいい声が市場に響き渡る（東部市場）

東果大阪（株）
そ菜部次長
松田正昭さん

市場としては、常に計画的に、継続して、適量の大根を出荷していただきたい。

そのためにも、大根の品質に改善を加えながら、更に努力していただき、江府の大根の質量ともにアップをお願いしたいと思います。

新商店
丸大野さん

今の季節は大根おろし、おでん、それにキムチに使います。一番思うことは、とにかく、大根の病気に気をつけてほしいということだけです。

江府の大根は、大好きですから、どんどん作ってください。

▲大根は半分に切られて、パックされます。
（近商ストア布施店）

市場からスーパーへ

仲買人さんが買いつけた大根はそれぞれの小売の店頭へと運ばれて行きました。

東果大阪の松田次長さんも同行していただき、江府町の大根がおろされた東大阪市の布施駅にある（株）近商ストア布施店に行きました。

スーパーマーケットの開店は午前十時。午前九時までに大根は到着。

駅と隣り合わせになっているこの近商ストアは、開店したばかりだというのに、たくさんのお客さんが来店していました。

到着した大根は料理室で、すぐに半分に切られ、パックされ、野菜のコーナーに並びました。

担当の林チーフに話を聞きました。

▲「いい大根でっせ」（東部市場）

近商ストア布施店
チーフ林　成典さん

「私どもの場合は、すべて前日の午後四時までに本部を通じて、仲買人に仕入れの数量を申込みます。

店頭には、大根を半分にしたものと一本分を並べます。

陳列する時、みばえがいいようにすることやほかの野菜とのバランスも考えながら、置くように工夫しています。

最近は、野菜も輸入品が多く、お客様のなかには、安全などについて、過剰に意識する方も多く、国内産にこだわる傾向もあります。」と、ていねいに答えていただきました。

こうして、生産から流通そして消費へと約二十四時間をかけて行った大根追跡の取材旅。多くの人たちの尽力によって、成り立っていることを痛感しました。

▲店頭に一本ずつ、ていねいに並べられる大根
（近商ストア布施店）

取材メモ

一本の大根が遠く離れた関西へ。その流通をこの目で、この耳で知りたくて、行った追跡の旅。

ご協力いただきましたJAの加藤誉正係長、日通の三上・長沢運転手、東果大阪の松田次長、近商ストアの林チーフそして、地元、下蚊屋の小椋利春さんご一家に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

皆さん方のご協力とご理解なくして、できなかった取材でした。取材の折、いろいろとご迷惑もおかけしたと思いますが、ご了承いただければ幸いです。（係）

お年寄りは町の宝です

＝高齢者（九十二歳以上）を31人顕彰＝

数え年九十二歳以上のお年寄り（三十一人、次のとおり掲載している方）に福田町長がそれぞれのお宅を訪問し、記念品と目録を贈りました。また、ご家族には、介護年手当金と感謝状を手渡しました。

また、数え年七十歳以上のお年寄りには、記念品が贈られました。

▲福田町長から記念品などが手渡されました（吉原）

吉原　新見　まつさん（百歳）
（新見　昭三さん母）

久連　水下すみよさん（九十九歳）
（水下　博さん母）

本四　住田ひさよさん（九十九歳）
（住田美智恵さん母）

池の内　加藤あかよさん（九十九歳）
（加藤美和子さん義母）

御机　川上ちとせさん（九十七歳）
（川上八千穂さん母）

下蚊屋　小椋あさのさん（九十七歳）
（小椋　博さん母）

柿原　奥田をたねさん（九十七歳）
（奥田　薫さん母）

荒田　井上　栁次さん（九十六歳）
（井上昭宣さん祖父）

貝田　遠藤くらのさん（九十六歳）
（遠藤規矩雄さん母）

柿原　加藤むめよさん（九十六歳）
（加藤喜文さん母）

本四　下村　一代さん（九十六歳）
（下村耕朗さん養母）

貝田　森田ふでをさん（九十五歳）
（森田　智さん祖母）

下蚊屋　白根　タキさん（九十五歳）
（仲田健治さん祖母）

下安井　中村　徳代さん（九十五歳）
（中村眞佐雄さん母）

下蚊屋　小椋よしよさん（九十五歳）
（小椋喜美さん祖母）

吉原　天野　都治さん（九十五歳）
（天野日出男さん父）

下蚊屋　宮尾美智子さん（九十三歳）
（小椋俊夫さん縁故者）

袋原　新見　榮子さん（九十三歳）

大河原　桑原　つねさん（九十三歳）
（桑原　茂さん母）

本二　福田　岩雄さん（九十三歳）
（福田　絹江さん父）

本三　川上　智恵さん（九十三歳）
（川上雄右さん母）

尾上原　中尾　あいさん（九十二歳）
（中尾雄三郎さん養母）

貝田車　琴さん（九十二歳）
（車　数照さん母）

吉原　松原　孝憲さん（九十二歳）
（松原　寛さん父）

西成　妹尾　こうさん（九十二歳）
（妹尾治夫さん妻の母）

新道　仲田　勇さん（九十二歳）

新道　仲田　政子さん（九十二歳）

尾上原　宮本しずよさん（九十二歳）
（宮本高義さん養母）

袋原　砂口とし子さん（九十二歳）
（千藤　正さん叔母）

（なお、該当者の本四の前田久次郎さんと洲河崎の浦部延壽さんは町報に掲載するまでに、お亡くなりになりました）

白寿(99歳)・米寿(88歳)をお迎えになった皆さんに郵政大臣から記念品

米寿　白寿

加藤久人さん(武庫)　宇田川菊江さん(本二)　藤原萬喜子さん(尾上原)　小椋　清さん(下蚊屋)　水下すみよさん(久連)

渡部正雄さん(宮市原)　徳岡[illegible]さん(本二)　井上菊代さん(荒田)　田中千枝さん(白住)　住田ひさよさん(本四)

小川　米さん(久連)　川上　清さん(助沢)　福田せき子さん(本二)　米田くらよさん(本一)　加藤あかよさん(池の内)

12組の金婚50年者に記念品贈る

九月七日、結婚五十年を迎えた皆さんに福田町長から記念品が手渡されました。

金婚式を迎えたのは、町内で十二組。ともに、励まし合いながら人生坂を登り続けるご夫婦に心からの祝福がおくられました。

新一　岡田正一　晴枝
本一　松本啓治　益江
洲河崎　三好貢　典子
半の上　徳岡健一　文枝
池の内　藤原力　玉枝
池の内　加藤尊男　公子
笠良原　原田好雄　秀子
栗尾　末次雅明　いせの
吉原　砂口千万人　節枝
袋原　清水亮祐　春恵
柿原　田中長美　須奈恵
小江尾　篠村克己　美恵小

▲福田町長から記念品が手渡されました(小江尾)

〝鳥取県ことぶきの船〟訪韓団に参加して

友情深めた十日間

アンニョンハセヨ —こんにちは—

鳥取県主催によることぶきの船が九月五日～十四日の十日間、韓国（江原道）を訪問。本町からは加藤珣紀さん（池の内）と奥井忠一さん（新道）が参加され、文化・スポーツ交流が行われました。その模様について、加藤さんにレポートしていただきました。

地元老人クラブの大歓迎うける

九月五日、韓国江原道訪問の「ことぶきの船」は、沖副知事を団長とする役員、団員三二二人を乗せ、秋晴れの境港を午後四時に出航した。

江府町からは私と新道の奥井忠一さんが参加。六日朝七時、東海港に着岸。岸壁では東海地区老人クラブの代表の出迎えを受けた。

この日は市内を見学したあと、夜は地元の老人クラブ二百人を迎え、船上交流パーティーが催され賑わった。

三日目、おぼえたての韓国語「アンニョンハセヨーこんにちはー」と挨拶を交わしながら、バスに乗車。車窓からは、道路の両側に、国花ムグンファ（木槿）が〝槿花一日栄〟と咲き誇るようすが目にまぶしい。

自分たちの作品子供たちに残したい

—水墨画交流会から—

約四十分ほどで、江陵市文化芸術会館に到着。日韓交流式典が行われ、江原道・鳥取を紹介する映画、スライドが上映された。

午後からは、それぞれの文化交流会が開かれ、私は希望していた水墨画交流会に参加した。

会場に入った途端、展示してある屏風の大作に驚く。水墨や墨彩と素人の作品とは思えないものであった。

江陵市のみなさんは、私たちをチマ・チョゴリの正装で出迎え、相互に挨拶を交わしたあと、自己紹介、作品などについて、通訳を交えて発表した。

江原道の皆さんは、まず字を習い、そのあと絵の勉強をして五年から八年になるとのこと、苦心して描いた作品を子供に残す楽しみを語られ、作品は決して高価なものではないが、自分の魂を残す何よりの財産であるとの考え方であった。記念撮影などを行い、名残を惜しみつつ、船に向かった。

▲水墨画の作品について、説明する加藤さん

すばらしい景色

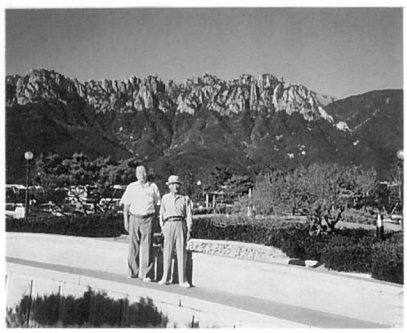
四日目は、市内の総合グラウンドで、ゲートボールなどの試合が行われ、ゲートボールも相当な腕前であった。

五日目は、国立公園雪嶽山の保養施設に二泊し、山登りなどをして、北朝鮮国境見学もできた。

韓国の最後の訪問地はソウル。人口一千二百万の大都市として開発が進む。

楽しい思い出を刻んだ九日間。通訳をしてくださったバスガイドさんをはじめ多くの方々に見送られ、一路、境港へと向かった。

九月十四日、早朝、明け方の島根半島、そして、遠く大山を望みながら、境港へと入港し、十日間の旅は幕を閉じた。



▶雄大な雪嶽山をバックに記念撮影（右側が奥井さん）

海外交流リポート

家々に飾られた花々が咲き乱れるチロル

八月三十日～九月七日の九日間、本町からオーストリアのチロル地方に訪問団（川端直団長ほか九人）が訪れました。チロルの感想について、同行した企画商工観光課の松原主任、末次主事にリポートしてもらいました。

山々と牧草地の絶妙のコントラス

空は、ぬけるような青空がどこまでもひろがり、本場のチロルとはどんな所だろうかと心も弾み、オーストリアへとバスは進みました。

チロル地方に入ると、険しい山々の斜面にはきれいに手入れされ、青々とした牧草地が広がっていきました。

想像をしていた以上の風景に圧倒。

今回の研修の案内からすべての手続きをしてくださった沢弥生（きわやよい）さん（地元に住んでおられる日本人）は、この美しい風景について「チロルでは観光がメインの産業です。山はだの牧草地は自治体が地形ごとに四段階にわけて、補助金を支給し、観光的にも景観を守るためにも整備しているんです」と説明してくださった。

世界一美しい村アルスバッハの家

そして、バスは、世界一美しい村といわれるアルスバッハに到着。とにかく、村が清潔であるというのが第一印象。

レストランも、民家も、そして村役場にも、出窓にあふれんばかりの花が咲き乱れ、だれもが、自分たちの村をきれいにしようとの熱意がひしひしと感じられました。

そして、夕方チロルでの最初の宿泊地ホッホッフユーゲンに到着しました。

小さな国際交流できました

次の日は、イエンバッハ駅から小さな蒸気機関車に乗り込みチロルの谷へと向かいました。時速約二十キロ。ゆっくりと美しい風景が流れていきました。線路に沿って、道路があり、そこをお年寄りや若者たちがジョギングして、列車に乗っている私たちに手を振ってくれました。

それに、こたえて、少し照れながら私たちも手を振ると、小さな国際交流ができたような気持ちがしました。

そして、美しい渓谷を通り終点のマイヤーホーヘェンに到着。そこから、バスでシューグアイスという貯水湖へ。

水質が石灰石の水で、飲むことはできませんが、生活・農業用のダムとして、チロルの人たちの大切な水でした。

そして、昨夜のホテルへと。

小さなＳＬでチロルの谷へ

話弾んだ本場チロルでの町づくり

チロルの夕焼けをみながら、二日間レストランのベランダで、テーブルを囲み、本場のチロルで「江府町のチロルの里について語ろう」と活発な意見交換が始まりました。

沢さんは、「町づくりの柱をチロルの里と打ち出しておられるなら、もっとチロルにこだわってほしい。例えば、チロルの建築家を紹へいし、技術導入するなど」とまた、研修メンバーからは「音楽などを通じた交流活動ができれば」など、いつまでも、話はとぎれることはありませんでした。

そして、最後に思ったことはチロルの人たちが自然との調和を図りながら、家々を花で飾ったりして、地域と積極的に関わっているライフスタイルにとても感銘しました。

決して、はでさはありませんが、豊かな暮しをおくっておられることも、大いに学びました。

（文責／松原俊二、末次義晃）

研修されたみなさん（敬称略）

川端直（本五）、宇田川満（武庫）

宮本菊男（下安井）、橋谷憶（半の上）

井上壽夫（荒田）、奥田親雄（柿原）

川上富夫（御机）、西村弘樹（本五）

さまざまな国から多くの観光客が訪問

運動会花盛り

秋晴れのもと、九月十八日に町内一斉に町民体育大会が、九月二十五日には、子供の国保育園運動会が行われ、子どももおとなもそれぞれの競技に奮闘していました。

↑水にわいたこの夏、「三平山の水」も登場

→みなさん、お元気ですか、俣野小歴代校長

→新校舎も、応援してますョ

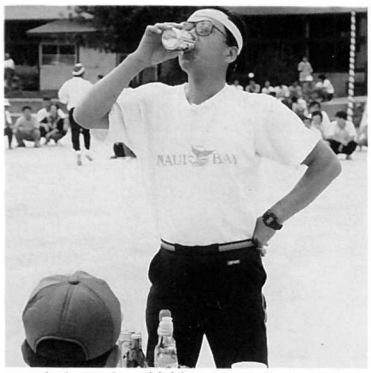
▲俣野会場▲

←もう少しでパンを食べおわります

▲明倫会場▲

←さあこい、引けるもんなら引いてみろ！

↑さあ、これからが勝敗のわかれ道



↑とても、競技にはみえません

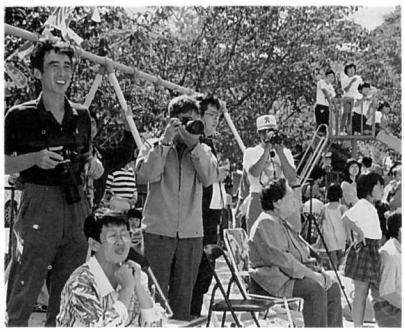
▲米沢会場▲

→青空に白球が飛び交う

↓大声援があちらこちらで

↑夫婦の息もピッタリあって!?

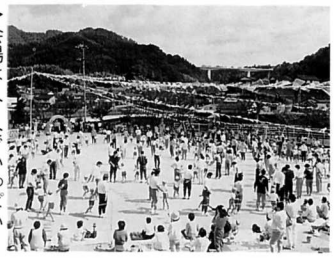
▲江尾会場▲



→名カメラマンがいっぱい

↓ゴールまでもう少し　バレ！

……子供の国保育園……



→会場は人・人でいっぱいです

▲キャンペーンレディがせいぞろい

消防まつり

夢いっぱい
イベント盛りたくさん

消防団の活性化と消防活動への理解を深めていただくために、10月10日(月)運動公園グラウンドで開催した消防まつり。

町内外から 約2,500人 が集まって、盛大に行われました。

ミニ消防車試乗、レスキュー隊の訓練、カラー放水などなど。子どもたちに人気のセーラームーンショーも行われました。それぞれのコーナーでは、真っ赤なコスチューム(衣装)のキャンペーンレディが案内をしました。

下蚊屋の荒神神楽で始まったオープニング。

ステージでは、警察音楽隊による軽快な演奏により、一挙に雰囲気は盛り上がりました。

そして、各コーナーでは、どこも、長蛇の列ができ、とりわけ、江府消防署の皆さんが三か月間かけて製作したミニ消防車には、子どもたちが楽しそうに乗っていました。

また、自衛隊の皆さんによるちびっこレンジャーコーナーでは、仮設のかごに乗った子供たちが、約二十メートルをすべり降り、大きな歓声を上げていました。

レスキュー訓練、第一分団による操法訓練のあと、消防車七台によるカラー放水が行われ、消防一色の一日となりました。

▲自衛隊ちびっこレンジャーコーナー

▲七色のカラー放水が行われました
(日野川河川敷)

▲子供たちに大人気のミニ消防車

平成六年度鳥取県景観大賞・建築物部門

俣野小学校・景観賞に輝く

全県公園化構想を打ち出している鳥取県では、この たび、鳥取県景観大賞を募集し、厳正な審査の結果、俣野小学校が建築物部門で景観賞を受賞しました。

▲やすらぎと温かみのある木造校舎、俣野小学校

周囲を緑の山々に囲まれて、バックには、大山を望む木造の校舎俣野小学校は、チロルの里にふさわしい、やすらぎと温かみのある建築物です。

自然とマッチしたこの校舎がこのたび、鳥取県景観大賞の景観賞を受賞しました。

設計にあたったのは米子市の桑本設計建築事務所、施行者は米子市の谷口組。

十月一日に、県民文化会館で全県公園化週間設定記念式典の席上、景観賞の受賞式が行われました。

数多くの建築物のなかから、選ばれた俣野小学校校舎は、本町が取り組むチロルの里の新しいシンボルとなりました。

神戸で大好評 チロルの里特産品

神戸市・魚崎町で物産展

▲魚崎町の皆さんには、おなじみの特産品ばかり

神戸市（魚崎町）の川井公園で九月二十五日（日）に物産展が開催されました。

神戸市の魚崎町と交流を行っている本町は、トマト、白ネギなどの農産物を出展、販売。

「とっても、新鮮な野菜ですね」と毎年、開かれる物産展には、チロルの里の特産品をお目当ての方も。

会場には、江尾十七夜に参加された方も来られて、夏の思い出話に花が咲いていました。

▲ずらりと並んだチロルの里の特産品

ジャンケン・ポン!! 特別養護老人ホーム

――明倫小の児童たちといっしょに楽しい運動会

▲パン食い競争に一生懸命のお年寄り

十月四日、特別養護老人ホームで楽しい運動会が行われました。

この運動会には、明倫小学校の児童たちもいっしょに参加。ジャンケン競争、パン食い競争、ボール送りなど、お年寄りの皆さんも夢中になって競技に取り組んでいました。運動会のあと、児童たちは、伯耆天神ばやしを披露。楽しいふれあいの一日となりました。

▲「ジャンケンポン♪」「あ♪ぼくの勝ちだ」

「交通事故なし梨で」と呼びかける

――秋の全国交通安全運動・街頭指導――

「交通事故を起こさないように」と交通安全を呼びかけたのは、交通安全母の会の皆さん。

九月二十一日から三十日まで行われた秋の全国交通安全運動。その期間の九月二十八日、柿原入口で、梨をドライバーに渡しながら、「交通ルールを守って、安全運転を」と訴えていました。

▶「安全運転でお願いします」と呼びかける

▶交通安全の看板をかかげて

"みんなできれいにしよう 私たちの町を"

江府中学校・クリーン・クリーン作戦

▲自分たちの町は自分たちできれいにしよう(上ノ段広場)

十月三日、江府中学校の生徒全員が町を清掃しました。

いつも、通学している道路、江尾駅周辺、総合体育館周辺それに、上ノ段広場などを清掃。ふだん何げなく通っている所にも、草がいっぱいおい茂っていて、生徒たちは汗をぶるぶるかきながら草刈りをしていました。

▲通学路をみんなで清掃(江府中学校前)

どこでも学ぼう

■生涯学習システムづくり■

生涯学習アンケート

（生涯学習について町民の意向）

昨年（平成五年八月）県西部公民館の企画で「成人の意識調査」を行いました。調査の対象は三十才から五十九才までの男女で、男女共に三十人ずつの計六十人の方から回答をいただきました。これは生涯学習そのものの調査ではありませんが、関連あることがらについて一部を紹介いたします。

◎「生きがい」について

『今、あなたは何かに「生きがい」を感じていますか』の問に、解答者六十人の内、四十五人（七十五％）が「感じている」と答えており、その内容について図1のようになっています。

回答数の多い順に第一位は男性で「職業や仕事のこと」、女性では「子どもの成長」で第二位はこれと対照的に男女が入れ替り、この二項だけで男女共半数をしめています。

又、「趣味・娯楽」は年齢が高くなるほど増える傾向が見られます。

◎「生涯学習」について

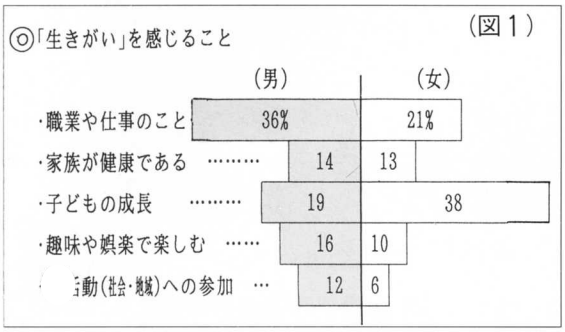
男性九十三％・女性九十七％とほとんどの人が必要だと答えており、その理由としては男女共「生きがいつくり」が圧倒的で「知識・技能を得る」「社会に遅れない」などの順になっています。

◎「現在、継続して学習している」について

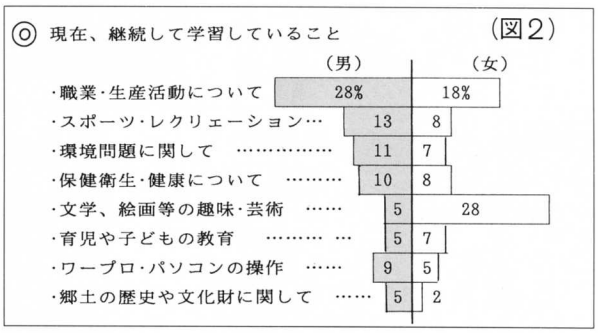
男女合わせて二十四人（四十％）の人が学習をしていると答え、その内容は図2のように、男性は体を動かすような職業・生産活動やスポーツ活動に、女性は趣味・芸術等個人的にとり組めることが中心のようです。最近よく話題になる環境問題には、男女共高年齢の人の回答が集っています。

又、学習をしていない人では「忙がしい」の理由が最も多数（男女平均三十％）で、中でも四十～五十才の人の率が高く、三十才から四十五才の女性で「同好者がいない」「周囲の理解」の回答が目立ちました。

（図1）



（図2）



生涯学習推進大会及び文化講演会

○日時　平成六年十二月十一日

○会場　山村開発センター

○講師　牟田悌三（ムタテイゾウ）

只今ロケ中

○芸歴

※滝つくし

※和っこの金メダル　他

◎大河ドラマ「八代将軍吉宗」加納　政直役

○その他

※文部省生涯学習クリエイティブアドバイザー

主催　江府町・江府町教育委員会・江府町公民館

後援　人づくり委員会

■生涯学習伝言板■

いつでも学ぼう

文化の発展は一冊の本から

No.28 図書館だより

江府町立図書館（75－2223）

不思議な秋

毎日汗とほこりにまみれて、空ばかり見上げながら「暑い暑い」と嘆いていたのに、突然、いつのまにかという感じで秋になってしまいました。

秋を感じたとたんに、瞑想にふけっている自分に気がつきませんか？

どうして楓の葉は紅葉するのか、どうして茜トンボのしっぽは赤くなるのか、どうして柿の実は赤く色づくのか…。

ポカポカした縁側の日だまりでたわいない疑問を拾ってみると「ン？」と思うことが案外落ちているものです。何気なく見過ごしてしまう風景も、心の中に受け皿が用意できさえすれば、秋の味覚も大盛りで写し出されるでしょう。

そして不思議に感じたことはそのままにしないことが大切。紅葉は、アントシアンという赤の色素が増えることにより生まれる現象。また茜トンボは、初夏に羽化し、秋に繁殖行為をするため、特にオスが赤色が強くなるほど、疑問についてはそれぞれ図書館で解決できます。

▲ミニギャラリーの作品

（十月から展示中の新見利明さんの糸のこ作品です。）

『ワンポイント情報』

七五三

七五三は、子供の無事な発育を喜び、なおいっそうの成長を願って、その年の子に晴着を着せ、神社・氏神などに詣でる行事である。

現在は男の子三歳と五歳、女の子三歳と七歳が親とともに宮参りをするが、古くは男女三歳で髪置きの祝い、男児五歳で袴着の祝い、女児七歳で帯解きの祝いを行った。

近年ほぼ全国的に行われるようになったが、もともとは日本の農村からごく自然に生まれてきた風習である。

中世以来、日本では赤ん坊は男女とも、たいてい頭を青くそり、三つの誕生日に初めて髪を伸ばす風習があった。もう赤ん坊ではないという意味でこれを髪置きと呼んだ。男の子は五歳になると袴着といって、初めて袴をはいた。女の子は七歳になると、ひもつきの着物にかわって帯をしめた。これを紐解き、帯解きと言い七歳になってはじめて一人前の人間として社会に認められたのです。

〈新着図書〉

○大往生　永六輔
○帰郷　海老沢泰久
○わが青春の台湾、わが青春の香港　邱永漢
○息子よ娘よ　吉村英夫
○地球へ、愛のメッセージ　杉本和乃
○父が娘に綴ったある一冊の日記　山本祥一郎
○雲仙長崎殺意の旅　西村京太郎
○南国かつおまぐろ旅　椎名誠
○八ケ岳倶楽部、森と暮らす森で学ぶ　柳生博
○永田町大乱　鈴木棟一
○台所でできるがん予防　井藤久雄

〈今月のおすすめ〉

「かこさとしの食べごと大発見」　加古里子

おいしいご飯の秘密、揚げもののコツ、季節行事の食べもの、野菜の切り方、下ごしらえ、おすしのネタ、魚のおろし方から煮方まで、心とからだに役立つおいしい絵本！

町外 町報愛読者からの声

ふるさとのぬくもりつたわる

町外に住む町報こうふを愛読していただいている皆さんから町報や町についての感想、意見をお寄せいただきました。

町の発展よくわかる

町報こうふも時とともに、様変りし、多種多様にわたり編集の方は大変ご苦労なことと思います。

以前、長い間掲載されていた記事が今は紙面から消えています。何か理由があったのですか。

現在、各町村がいかにして特徴を出し、活性化を図り、発展すべく努力していますが、江府町もまた然りと思います。

それにつれ、町報こうふも町民のふれあい、町の行事、その他、いつも紙面が充実しています。

今後、ますます町の発展と編集者の皆さんの健康とご活躍をお祈りしています。

（岡山県より）

緑地公園などあれば…

町も美しく自然に囲まれた静かな環境のなかに昔は想像もできなかったほどの発展ぶりに驚いています。

道路がきれいになり整備されて人と車の往来も便利になりましたが、子供のころの日野川辺りで泳いだり、枯草の上をころげまわったりした場所もなくなり、さびしい気がいたします。

これも、時代の流れでいたし方ないでしょうが、できれば老人も子供も気楽に散歩を楽しめるような車やバイクの入らない緑地公園のような、しかも土の道で樹木も植えてあり、水が流れて、そんな場所、遊歩道を時おり田舎に帰って散策してみたいと思ったりもします。都会の道は舗装されて堅められているので、一層土の道がなつかしくなるのでしょうか。

（東京都　青木花子）

町内の民謡などを楽譜にしたい

町報についての感想は唯々ありがたいとのみ思っています。

故郷を離れた身にとって、実に心の励み、なぐさめになります。

さて、口幅ったい考えですが、町内の古老のお方で覚えていらっしゃる人がありましたら、町内古来の民謡、わらべ歌をテープに納めてお送りくださいませんか。私微力ながら、楽譜に記して町に寄贈したいと思います。

現在、私の記憶している曲、歌は譜面にして町に寄贈しようと目下、清書中です。

古老の方のテープをお願いできれば、幸いです。

（松江市　大岩季男）

細かい配慮がいっぱい

町のようすが生き生きと伝ってくるように思います。

大きな字でわかりやすい言葉づかいや写真も多く取り入れてあり、非常に親しみやすい紙面だと思います。

それでいて、例えば、図書館の新着、雑誌の紹介や介護問題など細かい配慮もなされているように思います。

（長野県より）

町報愛読して15年 主人や娘にも話しています

父が亡くなる前に町報を頼んでくれて、愛読させていただき15年になります。愛する我がふるさとの様子に思わず自慢したくなるような町の発展におどろきます。今では、人の名前をみてもわからない方が多くなり、世代交代を感じます。感動する表紙のカラー写真、町の動き、主人も娘も私の説明に親んでくれて読ませていただいています。

（姫路市　西古和子）

走馬灯のように昔を思い出す

年とともに、ふるさとは遠くなっておりましたが、町報を購読するようになって走馬灯のように昔のことが胸中によみがえってまいりました。

私どもの若い頃の江尾のようすとは驚きの一言です。立派に、そして、きれいにいろいろの施設ができ発展していくふるさとに本当にうれしく胸を張って老人会などで自慢をしております。でも、発展の陰には子供のころの思い出の場所が次々と消えてしまい、ちょっとさびしい思いもございます。

九月の町報は、江尾十七夜、昔はお寺の本堂の前で踊りました。ドーンドーンと太鼓の音が聞こえてくるようです。遠い遠い昔のことでした。そのころを思い出し涙が出てまいりました。毎月の故郷のニュースを楽しみにお待ちしております。

（堺市　城下つぎ）

何ともいえないなごやかな気持ちに

いつも遠い故郷のことを思い浮かべながら、なつかしく拝見させていただいております。

特に、掲載されているなつかしい風景、町民の皆様の写真を拝見していると都会のあわただしさを忘れ、子供のころが思い出され、何ともいえないなごやかな気持ちになります。

また、同時に自然を残しながら、刻々と変化をとげていく故郷の様子に時代の移り変わりを感じます。

また、文章の端々に執筆されていらっしゃる方々の心のぬくもりが感じられます。

（東京都より）

チロルの里をもっとピーアール

江府町の皆様お元気でしょうか。小生も倉吉市に来てから早や二年半になりました。

今年四月より町報をご送付いただき、なつかしく愛読しています。当地におりますと「チロルの里」といってもどこのことという人も多々ありますので、町外にもっともっと宣伝してほしいと思います。

（倉吉市　神坂克行）

▲いつまでも、たえることのない小川のせせらぎ

楽しみに待ってます

内容もさることながら、毎月の号がその月のうちに配布されること。当然といえば、当然かもしれませんが、広報担当さんの努力のたまものと思います。

広報紙編集には、いろいろきまりごとがあるのでしょうが、写真もほどほど、活字もほどよい大きさで、見やすい広報紙だと思います。

待っています。来月の町報こうふ。（会見町　岩田）

▲秋風にたなびくすすきの穂（美用）

郷愁標う写真に感銘しています

江府町を離れて三十余年。

年々見知らぬ方々が登場されるようになりましたが、バックの風景など、ハッとする場合もときどきあり、たいへんなつかしく感じます。

これからも、故郷の出来事のあれこれを知らせていただければ、幸いに存じます。

（札幌市　加藤寛紀）

レイアウトに工夫を

最近は内容も充実して鳥取県の一自治体の活発な動きがよくわかりますが、広報紙のレイアウト（割付）をもう少し勉強されると、なお、すばらしいものになると思います。白いスペース（余白）が目立ち過ぎるのが気になります。

（東京新聞編集局次長　宇治敏彦）

子どもたちが興味をもつものに

町外から通勤している私たちには、江府町の現状を一番よく知ることができ、月一回手にするのを非常に楽しみにしています。

町報そのものについて言えば、就学児がもっと興味を持つようなもう少し対象年齢を下げた内容、編集もできればと感じています。

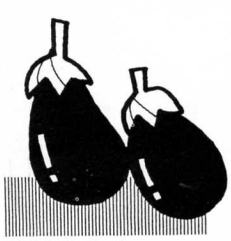
（米子市　倉本峰男）

地方の時代　江府町が主役に

毎月、町報紙を拝見いたし感銘新たにいたしている所であります。

来たる二十一世紀には、地方の時代と日本も変わっていくことと思われる昨今、江府町がますます繁栄されますことを東日本の地でお祈り申し上げます。

（茨城県より）



貴重なご意見・ご感想ありがとうございました

このたび、町外に住む町出身の皆さんや町外の事業所などの皆さんに、町報や町についてのご意見・ご感想をお願いしたところ、たくさんの皆さんにお寄せいただき、誠にありがとうございました。

「町の発展に驚いている」「土の道で、樹木も植えてある緑地公園があれば」「もっとチロルの里をピーアールを」などの声や「十五年間、愛読してます」、「長い間、掲載してあった記事が最近ないのは」、「レイアウトにもっと工夫」など町報についてのご意見もいただきました。貴重な皆さんの声をふまえて、ふるさとのホットな情報を今後も発信してまいります。（係）

やさしい介護のために②

寝具は寝起きのしやすいものを

寝具は、介護する方にとってはベットの方が楽なのですが、あくまでもお年寄りの状態に合わせて選ぶことが大切です。はってなら動ける場合とか、転落する危険がある場合はふとんの方がよいと思います。

住み慣れた家でお年寄りを介護する場合について、今回は具体的に説明をしたいと思います。

まず、お年寄りの部屋については、次の主な点に心がけてください。

■温度・湿度に配慮すること。冬場は、室内温度は一九～二二度（夏場は二〇～二四度）に、湿度は五〇～七〇パーセントにし、換気に注意すること。ただし、お年寄りの要望を聞いてください。

■家族の声が聞こえ、気軽に声をかけられる場所

■明るく、日あたり、風通しがよいこと。

次に、よい寝具の条件として次の点（下の図）に心がけてください。

1 からだが沈み込まないもの
2 かけぶとんは軽めに
3 からだの動きをさまたげないもの
4 枕は低くて大きなもの
5 手入れが簡単なもの
6 吸湿性・通気性のあるもの
7 シーツは大きめのものでひんぱんに交換する
8 ふとんは二組あると交互に干して使えて便利

1 からだが沈み込まないもの

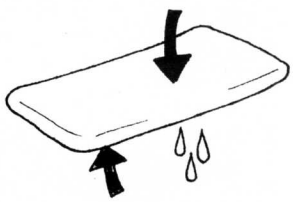
2 かけぶとんは軽めに

3 からだの動きをさまたげないもの

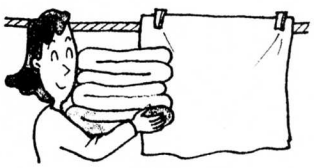
4 枕は低くて大きなもの

5 手入れが簡単なもの

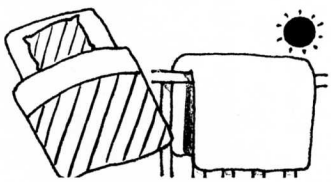
6 吸湿性，通気性のあるもの



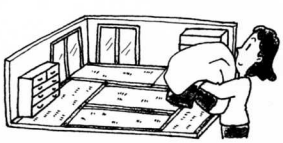
7 シーツは大きめのものでひんぱんに交換する



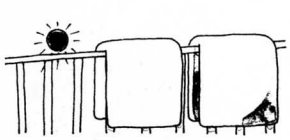
8 ふとんは2組あると交互に干して使えて便利



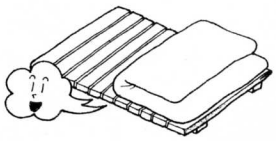
ふとんの場合に注意したいこと



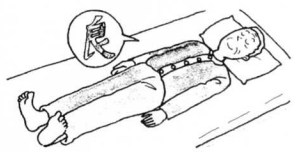
敷く場所をときどき変える



ふとんはこまめに干す



下にすのこなどを敷き，通風性を考える



敷きぶとんはからだが沈まない硬さのものを

10月1日から 保険制度がかわりました

お知らせ

▶入院中の食事代の一部が患者負担に◀

該当者＼期間	平成6年10月1日から平成8年9月30日まで	平成8年10月1日から
一般の方	1日　600円	1日　800円
町民税非課税世帯の方	1日　450円	1日　660円
町民税課税世帯の方・90日をこえ入院する場合	1日　300円	1日　500円
町民税課税世帯の老齢福祉年金受給者	1日　200円	1日　300円

町民税非課税世帯の方で、入院している方または入院される方は「負担額認定証」がなければ入院中の食事代の減額を受けることができません。国民健康保険の被保険者で町民税課税世帯の方・老人医療該当者の方で入院のため「負担減額認定証」が必要な方は役場において手続きをしてください。

■手続きに必要なもの／健康保険証・印かん・老人医療受給者証（老人医療受給者のみ）

警察の犯罪捜査にご協力を

●「事件かな？」と思ったら一一〇番をしてください。

ひとつの事件をふり返ってみたとき、事件関係者や目撃された方の一一〇番通報があれば、その現場で犯人を捕まえることができたり、被害者を保護することができたという場合が多くあります。

一一〇番の通報は、早ければ早いほど、被害者を無事救出し、犯人を早く捕まえることができますので、「事件かな？」と思った時なら、いつでもしてください。

●犯罪について知っていることは積極的に通報をしてください

事件が起った時、不審な人や車を目撃したとか、あるいは、犯人に似た人を知っているといった場合、ためらわずどんなことでもかまいません。すぐに、一一〇番通報か最寄りの駐在所にお知らせください。

●聞き込み捜査にご協力をお願いします

聞き込み捜査は、事件が起ったとき、捜査員が皆さんのお宅を訪問して、事件に関することを聞いて歩く捜査活動です。

皆さんのひとことが事件の解決に重要なカギとなります。

皆さんにご迷惑のかからないよう細心の注意を払っていますので、ご協力をお願いします。

●万一、被害にあったときは必ず届出をしてください。

不幸にして犯罪にあった時「面倒だ」などの理由から届出をしない方がいますが、それが結果的に犯人を助けることになります。

警察は、届け出された方の身の安全を守りますので、勇気を出して届出をしてください。

サービス業基本調査にご協力を！

総務庁では、11月1日現在でサービス業基本調査を実施します。近年、経済のサービス化の進展により、我が国のサービス産業の重要性がますます高まっています。この調査は、統計法に基づく指定統計調査として行うもので、サービス業事業所の従業者数、事業収入金額などの基本的な項目について、調査票に記入していただくものです。調査票は、統計上の目的だけに用いられ、課税などの他の目的に用いられることは決してありません。10月下旬から調査員が事業所を訪問して調査票の記入をお願いしますので、調査に御協力ください。

鳥取県

最低賃金が改正されました

10月1日から

最低賃金は最低賃金法に基づいて決定されるもので、事業主は最低賃金より低い賃金で労働者を使用することはできません。

県では、県内すべての労働者（常用、臨時、パートタイム、アルバイトなどを問いません）と労働者をひとりでも使用しているすべての使用者に適用されます。

鳥取県最低賃金表

	今までの額	改正額
日　額	4,269円	**4,371円**
時間額	534円	**547円**

※ただし、最低賃金には、精皆勤手当、通勤手当家族手当は算入しません。

予防接種法が改正

インフルエンザは予防接種でなくなりました

インフルエンザは、予防接種法により、毎年十一月から十二月にかけて予防接種を実施していましたが、六月に予防接種法が改正され、インフルエンザは予防接種の対象でなくなりました。

このため、今年から町による接種は行いませんので、お知らせします。

10月1日から 行政手続法がスタート

この法律は、行政運営の公正の確保と透明性の向上を図ることを目的として、施行された法律です。

主な内容は次のとおりです。

○法令に基づき、市町村を含む行政機関が行う申請に対する許認可などについて、その審査基準をあらかじめ定めておき、公表すること。

詳しくは、役場総務課へお問い合わせください。

行事あれこれ 10月・11月

※会議などによっては、場所・時間などが変更になることもありますのでご確認ください。

日　付	行　事　予　定	日　付	行　事　予　定
10／24(月)	三町衛生施設組合監査会 島根県邑智町視察来町	10／30(日)	文化祭作品展示、カサラファーム収穫祭
25(火)	不要犬引取日	31(月)	
26(水)	部落解放とあらゆる差別撤廃条例審議会	11／1(火)	町慰霊祭（AM10：00） 山村開発センター
27(木)	町高齢者スポーツ大会（AM10：00） 町民総合体育館	2(水)	水力発電交付金会議
28(金)	高校総体リハーサル大会	3(木)	文化・芸能発表会・チャリティー 山村開発センター
29(土)	文化祭作品展示 山村開発センター・日輪閣	4(金)	第20回町同和教育研究集会 山村開発センター

第5回シートベルト着用推進・キャンペーンクイズ

Q クイズにこたえて豪華賞品をもらおう!!

(財)日本交通安全教育普及協会では、シートベルトの着用推進を図るために、キャンペーンクイズを行います。

次の質問にこたえて、お送りいただいた皆さんのなかから、レーザーディスクプレーヤーなどの賞品がもれなくあたりますので、どんどんご応募ください。

問1、運転する人は、自分がシートベルトを着用するのは当然ですが、同乗者に対しては、どうするのが、最も正しいでしょうか?

①助手席の人だけ着用させる。
②自分だけ着用していればよい。
③後部座席の人も含めて、全員に着用させる。

問2、エアバックを装備する車が増えていますが、シートベルトとエアバックについて、正しいのはどれでしょうか?

①シートベルトとエアバックをあわせて使用する。
②エアバックがあればシートベルトは着用しなくてもよい。
③エアバックの装備もシートベルトの着用も必要ない。

問3、小さな子供を車に乗せるときには、どのようにしたらよいでしょうか?

①助手席に乗せ、大人と同じシートベルトを着用させる。
②できるだけ後部座席に乗せ体格にあったチャイルドシートを着用させる。
③大人のひざの上にだっこする。

■賞品

A賞　マルチレーザーディスクプレーヤー（20人）
B賞　CDラジカセ（40人）
C賞　パーソナルカラーテレビ（14型）（40人）

■応募方法

官製はがきに、希望の商品名、クイズの答、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号を記入してください。

■募集期間

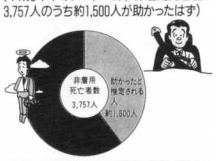
十一月十五日まで

■送り先

〒一〇六
東京都港区西麻布三―二四―二〇
(財)日本交通安全教育普及協会「シートベルトキャンペーンクイズH係」

シートベルト10の常識

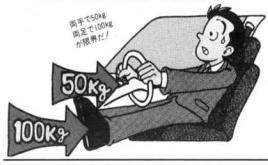
1 シートベルトを着用していればシートベルト非着用死亡者の約4割が助かったはず。
(平成5年中のシートベルト非着用死亡者3,757人のうち約1,500人が助かったはず)



2 衝突の瞬間はまばたきよりも速い。
(衝突の瞬間は0.02秒、まばたきは0.2秒)

3 子どもは大人以上にダメージを受ける。
(衝突時、子どもはまるでピンポン玉のように車内を飛ぶ。必ずチャイルドシートを しめる)

4 衝突時の衝撃力はあなたの体重の30倍。
(時速40kmで体重の30倍の衝撃力。両手、両足で支えられるのは体重の2～3倍が限界)



5 車外に放出されたときの致死率は車内の20倍。
(シートベルトの装着は、車外への放出を防止する)

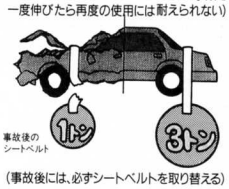
6 シートベルトは頭部の損傷を防ぐ。
(自動車乗車中の事故死亡者の約5割が頭部の損傷による死亡。人間の一番の急所は頭部である)

7 近い距離でも油断は禁物。
(自動車事故の4分の3が、自宅から40km以内)

8 シートベルトの僅かなたるみが 致命傷。
(20cmのたるみは、シートベルト そのもので けがをする 場合がある)

▼正しい着用の仕方

9 一度伸びたシートベルトは危険。
(3トンの荷重に耐えるシートベルトも、事故で一度伸びたら再度の使用には耐えられない)



(事故後には、必ずシートベルトを取り替える)

10 万一の場合の保険。
(シートベルトの着用者には、事故の場合、搭乗者傷害保険金の3割が加算される)

(割増額＝搭乗者傷害保険金×30%)

人の動き

9月届

お誕生おめでとう

（住所）（出生児）（保護者）（続柄）

御杌　加藤　宝　司　長男

本二　山本　愛芳　弘　二女

貝田　岡田　泰徳　延寿　三男

本一　小林　大介　健治　二男

ご結婚おめでとう

下垣　収）美用

高須賀陽子）神奈川県鎌倉市から

ごめい福を祈ります

（住所）（氏名）（年齢）（世帯主）

新一　西古三千雄　76歳　本人

下蚊屋　白根多美治　86歳　本人

洲河崎　浦部　延壽　91歳　健

貝田　藤原　敦子　37歳　澤治

白住　櫃田　房子　85歳　本人

本四　前田久次郎　91歳　本人

平成6年9月届

		（前月比）
世帯数	1,252世帯	（－3）
人口	4,539人	（－9）
男	2,162人	（－6）
女	2,377人	（－3）

作り手のひとりごと

もう一度町報読んでください

町外町報愛読者の声から

まつげは、目にもっとも近くあるのに、ほとんど気づかないものです。

町報愛読者の皆さんからお寄せいただいた声をみてみると、町に住んでいる私たちよりも、町のことをよく知っているように思います。

「あそこに、集会所が建築中ですね」とか「きれいな道ができましたね」「江尾十七夜がなつかしいですね」など遠く離れたふるさとのことを。

一方、町に住んでいる私たちは、どちらかというとあまり気にしていない面もあると思います。

町報では、町のできごと、話題をはじめ毎月一回というペースで、町民の皆さんに情報提供をしています。

行政からの情報提供は比較的、専門用語も多く堅苦しくつまらないとの評価をいただいているのが事情です。

だから、大切なことが載っていても、すぐに忘れられる運命にあり、町報も、そのひとつかもしれません。

きっと楽しい発見があるはず

できたら、もう一度、町報などの配布物をじっくりご覧いただきたいと思います。きっと、楽しい発見があるはずです。

室生犀星の詩「ふるさとは、遠くにありて思うもの…」をふと思い出し、町外に住む方の心境を垣間みた思いがしました。

編集後記

▼大根のゆくえを追跡して大阪へ。ある百貨店の野菜売場で、消費者がどんな大根を買うのか、調べてみた。

出で立ちは、帽子をかぶり、作業服を着て、足元はシューズ。あまり、野菜売場では、このような人は見かけません。

ご年配の婦人が、大根一本をかごに入れた。おずおずとそばにより、名刺を手渡し「何に使われますか」「大根おろしに」「大根おろしなら、切りの大根でも」「のこりは煮物か、おでんでも」と。アポ（約束）なし直撃インタビューを行うこと数度。何んでこんな人がここに、と不思議な視線を感じながら、あぶない人に間違えられそうになりながら浪花の取材は多くの方々にささえられて、無事終了。

▼運動公園グラウンドに町内外から予想を上回る約二千五百人が集った消防まつり。

江府消防署製作のミニ消防車は、ゴーカートを改造してつくったもので、取付けしているハシゴも自由に動くし、本物と同じように、放水もできる。ただ、バックができない。人生もまたバックなし。ミニ消防車のように、元気に前へ前へ進みたいものだ。

元気で～すヤング ⑦ 子ども、大好きです

ひよこ組の子どもとハ～イ ポーズ。
笑顔のすてきな下村さん。

子供の国保育園勤務　下村佳子さん（22歳）

＊つとめて何年になりますか？
3年目になります。最近思うことは、奥の深い仕事だと思います。

＊行ってみたい所は？
外国。タヒチ、バリ、ニューカレドニア……。

＊好きな男性のタイプは？
思いやりがあって、いっしょにいて楽しい人。

＊趣味は？
テニスです。

生徒からお兄さんのように、したわれている
冨田さん。

ジャージの似合う男になりたい

江府中学校勤務　冨田健一さん（23歳）

＊教師を目指した理由は何んですか？
自然環境の大切さを理科を通じて知ってもらいたくて。

＊行ってみたい所は？
中国の奥地で、魚つりをしてみたいですね。

＊好きな女性のタイプは？
特になし。

＊趣味は？
魚釣り。海でも川でもかまいません。休みはほとんど釣りに行っています。

＊町にのぞみたいことは？
クロスカントリーランニングコースがあればと思います。

発行・江府町役場
〒689-44 鳥取県日野郡江府町大字江尾475
☎0859(75)2211 FAX0859(75)2389
編集・総務課
印刷・冨士印刷